

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助実習 I Social Work Practicum I		1年	集中（後期）	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	実験実習	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得必修)	相談援助実習指導Ⅱの単位取得者、他フィールド履修不可。社会福祉士資格に関連する科目3科目以上
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
中島佳子 吉田志保 大熊信成		栄養棟3階	各教員から説明します	授業中に指示します
授業の概要				
選定した相談援助場面において、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。特に基本的なコミュニケーション、円滑な人間関係の形成、利用者理解の方法を学ぶ。また職場の構造と機能を全体的に理解する。				
授業の目標				
①学内で学んだ知識や技術を実際の援助現場で確認し、理論と実践を結びつけることができるようにする。 ②社会福祉専門職としての自己覚知、利用者理解を深め、施設・機関の機能やニーズについて分析することができるようにする。 ③社会人としてのマナーを守り、責任ある行動ができるようにする。 ④多職種協働を学び、相談援助の内容や相談援助職の役割と連携について明確に示すことができるようにする。 ④利用者とのコミュニケーション方法を学び、例証できるようにする。 ⑤実習機関・施設で働く専門職の、多職種協働のありようを確認できるようにする。				
授業の方法				
福祉施設・機関における実習				
学習の成果（学習成果）				
机上で学んだ社会福祉や相談援助に関する知識や技術が実際の援助現場で活かされていることを確認し、社会福祉専門職として自己理解と対象理解について具体的にかつ実践的に分析できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	配属された各施設・機関において6日間（48時間以上）の実習を行う。			
第2回目	・配属先は、原則として実習生の希望や居住地、実習計画を参考に実習指導教員が配属を行う。			
第3回目	・実習1か月前には実習施設・機関へ事前訪問を行う。			
第4回目	・実習中は実習指導者の指示に従い、スーパービジョンを受ける。			
第5回目	・記録を毎日作成し、期限までに実習指導者へ提出する。（最終日には、全記録を実習指導者へ提出する）			
第6回目	・実習終了後は、6日間の学びを「評価とまとめ」として作成し、実習指導者へ提出する。			

第7回目	・実習中、実習指導教員による巡回指導を1回行う。	
第8回目	【実習予定施設・種別】社会福祉協議会・介護老人福祉施設、デイサービス、障害者支援施設等。	
第9回目		
第10回目		
第11回目		
第12回目		
第13回目		
第14回目		
第15回目		
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、不明なところは必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他	100%	出勤状況、実習態度、実習巡回指導、実習指導者の評価、記録などにより総合的に評価する
教科書と参考図書		
相談援助実習指導ⅠⅡと同様 他資料等授業時に指示します。		
履修上の留意点・ルール		
実習生としてのマナーやルールを順守し、実習に適した態度で実習に臨むこと。		